



# 近世東ユーラシア及び海域アジア交渉史の研究

人間文化学部 国際文化学科  
准教授 岡本 弘道（おかもと ひろみち）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1714 号室  
Tel 082-251-5178（代表） Fax 082-251-9405（代表）  
E-mail okamoto@pu-hiroshima.ac.jp  
URL <http://www.maritime-asia.net/>

専門分野： 東洋史 琉球史 近世海域アジア史 近世東ユーラシア国際関係史

キーワード： 琉球王国 海上交渉史 海域アジア 近世朝貢 明清中国 国際関係史 外交 交易

## ● 現在の研究について

### 1. 琉球王国をめぐる海域アジア交渉史

現在の鹿児島県奄美群島から沖縄県にかけての、いわゆる「琉球弧」と呼ばれる島嶼域には、かつて琉球王国と呼ばれる独自の国家が存在していました。14世紀後半から19世紀にかけて、琉球王国は海上交易を基盤とする独自の歴史や文化を育んできました。

琉球王国の歴史は、周辺諸地域との相互交渉を抜きにして理解することができません。琉球王国の歴史を通じて、近世期の東アジア海域や、海域アジアについて多くの知見を得ることができます。また、琉球弧は隣接する中国・日本・朝鮮などと比べ、国家形成の開始がかなり遅い地域です。琉球弧の歴史を自然環境と人間社会との相互作用に着目して再検討することで、現在の国家の役割やあり方を再考する手掛かりとなります。

### 2. 明清中国における「朝貢」の実態と東ユーラシア国際関係史

前近代の東アジアでは、「朝貢」が国際関係の基本原則として用いられてきました。特に明清中国の皇帝と周辺諸地域との関係において、朝貢は非常に重要な意味を持っていました。琉球王国も、明清中国との朝貢関係を基軸に外交や海上交易を展開していました。狭い意味での東アジアに限定せず、明清中国と関係を持った東ユーラシア全域を対象範囲を広げ、その中での朝貢の様々な有り様を分析・検討・比較することを通じて、近世期の東ユーラシア国際関係史を考えていきます。

### 3. 近世海域アジアにおける文化交渉の諸相

ヨーロッパ文明が全面的に導入される前段階の近世は、アジアの各地でいわゆる「伝統」文化が形成された時代でした。「伝統」文化は、決して単に現地の従来の文化だけをもとに形成されたわけではなく、近世までに断続的に行われた文化交渉の結果として形作られていきました。その具体例を検討することによって、文化やアジア各地の伝統の持つ意味・可能性を模索していきます。

## ● 今後進めていきたい研究について

引き続き「近世」という時代に注目して、アジアの地域的な特徴を考えてみたいと思っています。琉球に限らず、広くヒト・モノ・情報の交流の歴史を掘り起こして、アジア地域の将来展望につながる手掛かりを得たいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

- ・小学校・中学校・高等学校など、公的教育機関における歴史教育実践への協力と改善。
- ・図書館、公民館、NGOなどの公的団体が主催する公開講座を通じた歴史理解のための活動。
- ・広島という地域ならではの歴史的課題への取り組み。例えば、海外移民のネットワークの比較史、生態系としての「島」社会の歴史など。

## ● これまでの連携実績

- ・講演「尖閣諸島の歴史的な位置」（平成24年度庄原市・県立広島大学市民公開講座「東アジアの時事問題を考える」、2012年7月6日）
- ・講演「アジアの海域交流史と華僑・華人社会の展開」（平成25年度県立広島大学公開講座「東アジアの現在～中国を理解するために～」、2013年6月26日）